

猪の瀬戸の昆虫

猪の瀬戸は由布・鶴見岳に囲まれた湿原域ですが、落葉広葉樹の多い比較的自然度の高い地域のため、高山から低山地に見られる種類から湿原地域にみられる種類まで、昆虫の生息種数は多いようです。

蝶

蝶・蛾の仲間ではジャコウアゲハ、キアゲハ、アゲハ、オナガアゲハ、ミヤマカラスアゲハ、ミドリヒョウモン、ウラギンヒョウモン、コムスジ、アカシジミなどが普通に見られます。特に少ない種として、ウラゴマダラシジミ、ウラキンシジミ、メスアカミドリシジミがあげられます。その他、カシワ林に見られるハヤシミドリシジミ、珍種のミヤマカラスシジミはコバノクロウメモドキを食草としています。最近非常に少なくなってしまったホシミスジはシモツケの分布に生息地が限られています。また、落葉樹林にいるキマダラモドキは林の縁部を好んで生息している種です。

▼メスアカミドリシジミ

金緑色に輝く翅表の美しさは見事で、幼虫は猪ノ瀬戸湿原に点在するヤマサクラを食べているようです。



▶ウラキンシジミ

山地の溪谷に住む種で、南平尾麓部付近に自生するアオダモを発生源にしていると思われます。翅の裏が金色に輝くことからこの名があります。



▲クシヒゲシャチホコ



▲エゾシロシタバ

蛾類のゼフィルスと呼ばれ、大変美しい蛾です。



蛾

蛾の仲間では、早春の頃、カエデ類に見られるクシヒゲシャチホコ、晩秋のころ見つかったムラサキミツボシキリガは希少な種です。その他、カバエダシャク、クロスジフユエダシャクといったクヌギにつく種やエゾシロシタバなど、低山地帯から高地帯に生息する種が一様に見られました。

甲虫

甲虫の仲間では、エコーライン周辺の枯れ沢の崖で越冬するホソムネクロナガオサムシとキュウシュウクロナガオサムシは特筆されるものです。従来標高1,000メートル付近にしか生息しないとされていたホソムネが低山地のスギ林周辺に生息するキュウシュウと同じ場所にいるのは猪の瀬戸だけのようです。



◀ホソムネクロナガオサムシ(左)

◀キュウシュウクロナガオサムシ(右)

◀ミヤマカラスアゲハ



◀トガリバホソコバネカミキリ

タンナサワフタギやサワフタギにつく仲間で、上翅が短い特異な嗜好をしたカミキリムシです。

26 ●

その他

その他、ニセハイイロハナカミキリ、トガリバホソコバネカミキリ、キンケトラカミキリ、アカジマトラカミキリ、ジャコウホソハナカミキリ、アカネトラカミキリ、シロチビコブカミキリ、ムネモンヤツボシカミキリ、ヒゲナガヒメルリカミキリなどカミキリムシの仲間が見られました。

その他、山地の溪流に住むトンボの仲間のオジロサナエ、ミルンヤンマ、鶴見岳山麓部の灌木にすむエゾハルゼミは県下で唯一多く見られる地域です。



▲ニセハイイロハナカミキリ
松の樹皮下で越冬中のニセハイイロハナカミキリ。



▲アカジマトラカミキリ
ラグビーのジャージの柄に似た上翅を持つ綺麗なカミキリムシです。

エゾハルゼミ▶

灌木帯に住み、ゲーキョゲーキョと特異な鳴き声のセミで鶴見山麓部は県下で唯一多く見られる所です。



オトカラの仲間。